

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500171		
法人名	吉村商工 有限会社		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	宮崎県小林市南西方1992番地13		
自己評価作成日	令和4年12月17日	評価結果市町村受理日	令和5年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhvou_pref_topiigvosvo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhvou_pref_topiigvosvo_index=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和5年3月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が企業理念を理解し、理念に基づき個人個人の介護サービスを提供しています。入居者の方々の気持ちに寄り添い、話しやすく、思いを聞き取れる環境作り心掛けています。安心、安全な日常生活が送れる様に関連部門の協力医との連携を図り健康状態を把握し、看取りの条件が整い終末ケアが行えます。最後まで人権を尊重し時を過ごしてもらえる様に配慮しています。花見やドライブで季節を感じていただき、その思いを貼り絵や工作に展開してもらい、一年中ホールや居室に思い出の工作や季節季節の飾りが展示され四季を感じながら毎日を生活しておられます。コロナ禍で面会制限がある中、少しでも入居者の方々の日常の表情や活動の様子を家族の皆様には動画や写真をタブレット等を駆使してあたたかも面会しているように報告しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは令和2年4月開設の企業グループ内で一番新しい事業所である。開設当初より、コロナ禍で地域住民との積極的交流や協力体制の構築が難しい状況であるが、グループ内の各事業所とは良好な協力関係にあり、利点を積極的に取り入れ運営に反映させている。自治会にも当初より加入している。コロナ禍による閉塞感や、運動不足による筋力低下の予防策として歌いながらの体操が毎日の日課になっている。協力医による定期的な往診や、ストーマ装具が必要になった利用者のために職員が病院で研修を受けるなど、利用者、家族ともに安心して過ごせるように支援している。これまでに3名の看取りも行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで利用者の状態や変化のあった方の情報を申し送りや業務日誌で確認、把握し利用者個々に寄り添った介護サービスに取り組んでいる。ミーティング時、企業の理念と基本方針と共に事業所理念を唱和している。	運営者、職員ともに地域密着型サービスの意義や役割をよく理解した企業理念を大切にしている。また、全職員で考えたホーム独自の目標があり、気付き心を大切に、理念を掘り下げた具体的なケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍、地域との交流は思うようにできていないが、敷地内の散策時近隣の方に声をかけていただいたり、庭の花の見学をさせていただいている。	開設当初より自治会に加入している。コロナ禍で地域の活動もほとんどなく、思うような交流はできていないが、民生委員や近隣の方、運営推進委員との情報交換を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様との会話の中から、日々の変化や体調、行動から学べた支援の方法や認知症の理解について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日常生活や活動風景を写した写真を資料に添付して報告をしている。日常生活や活動風景を資料として残すことで生活リズムの整えや振り返りができサービス向上に活かしている。	推進委員からの提案で、ホームの日常を色々と写真で紹介するようになり大変好評である。会議が実施できない場合は、郵送や直接持参して意見等を聞き、それをサービス向上に具体的に活かすよう努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃の連絡や相談以外に運営推進会議の際、市の担当者や包括支援センターの職員も出席して頂いており状況の説明や意見交換を行いながらスキルアップを目指した介護に取り組んでいる。	市主催の研修会等への参加をはじめ、介護度の変更手続きや、初めての監査に伴う相談、指導、確認など、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。運営推進会議メンバーの一員でもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行っているが利用者様の体調の変化等あった際は勉強会を増やしアンケートも取り入れ安全で拘束に繋がらないケアに取り組んでいる。	勉強会を3か月に1回行い、全職員が拘束のないケアの工夫に取り組んでいる。年に1回は理解度把握のための問題に記入、提出するようにしている。帰宅願望の強い方は特に気配を見落とさない見守りや職員の連携プレーで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様一人一人の言動・行動の変化や状態を理解し、知り得た情報を職員全体で周知共有する事で本人に寄り添ったケアをさせて頂く気持ちを持ち虐待防止に努めている。身体拘束研修時に虐待防止についての話し合いも持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている利用者がおられご家族や関係者の方とも定期的に話し合いの機会を持つことが出来た。今後も話し合いや関係性を深め活用支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退去時には十分な説明を行いご家族や利用者からの疑問や不安、意向を確認しながら理解、納得して頂いた上で契約等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の際、日常の様子を伝える中で意見や要望を職員全体で伺える体制を整えている。玄関に意見箱を設置し活用できる環境も整えている。面会制限中であるがタブレット導入によりご家族との面会や話し合いにも反映させている。	家族等には電話や面会時、何でも気楽に言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。出された意見や、要望などは全職員で話し合い運営に反映させている。タブレット導入もその1例である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて職員の意見や要望を設け管理者より代表者へ内容の報告、相談を行い運営に反映できるよう取り組んでいる。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを心がけている。代表者も毎日ホームに来て、現場や業務を把握している。コロナ感染時にはグループの他事業所から応援をもらい助かった。年に一度は代表者と職員が直接話し合う場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見や相談しやすい環境を作り楽しみを持ちやりがいを感じながらお互いを思いあえる職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加した職員の資料やまとめた内容を閲覧する機会を作り問題点を話し合う場を設けている。利用者の状況を報告し情報の共有を基本とし一人一人に合ったケアの出来る取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため連絡協議会への参加はできなかったが他施設との意見交換を通して交流が持てるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の雰囲気やスタッフの印象を確認していただき利用者や家族の要望・不安な事など十分に確認、理解し安心して過ごせる環境と関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後もご家族の面会や連絡時、不安や要望を確認し日頃から相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。電話対応時も安心して頂ける信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れていただくために本人や家族の要望を聞き、関係機関との情報交換を行い必要な支援を見極め本人と家族に説明しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々ができる事を把握し本人のやり方で続けていただき出来ない所は理由を確認し出来る事の喜びが持てる工夫をしながら共に生活出来る関係性が築ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告の際、家族の状況も伺い、必要時に病院受診の付き添いや不安訴え時の相談や面会に来て頂く協力をいただき、相談しやすい関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出制限がある中、花見やドライブを計画しそれぞれの自宅付近や馴染みの場所まで足を運び馴染みの方と顔を合わせる機会もあった。移動中の会話も弾む様子がみられ気分転換できる様心掛けた。	散歩時に近所の方や子供に声をかけたり、以前住んでいた地域へのドライブに行くこともある。家族との直接面会ができない時には、職員が間に入ったり、タブレットを使えるだけ分かりやすく、話しやすい支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子や利用者同士の関係性を見ながら会話の中に職員も入り話題を提供している。時には席替えをして会話の機会や楽しみが増える様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族から声をかけていただいたりお互いの近況報告を通して関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動から表情を観察し会話の中から思いや意向を把握し希望に添った暮らし方が出来ているのか検討している。	利用者や家族からの希望や意向は全職員で共有し、利用者の視点に立って検討している。意思の疎通が困難な方は、日々のかかわりの中で声掛けをしながら行動や表情からくみ取るように努めている。センター方式も活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族関係者からの情報を含め生活歴やこれまでの生活環境の把握に努めている。知り得た情報も含めアセスメントに反映させ職員で共有しサービス向上に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康観察、活動状況、食事、排泄、服薬状況を記録し職員全員で記録することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員が必要な関係者と話し合い意見や要望を聞き取り定期的に計画を行いケアのあり方を工夫しながら本人、家族の要望に添った取り組みを介護に反映させている。	家族には電話や面会時に、利用者本人には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。モニタリングの結果を踏まえ関係者の意見を聞きながら計画を作成しているが、見直しは状況の変化に応じて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践結果は記入した個別記録を職員で読み返し気づいた点は申し送りや業務日誌にて全職員で情報共有を行い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の日々の状況を家族と話し合い要望に応じて他事業所との連携を図りながらその時々で柔軟な支援、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの趣味や好みの話題の提供、馴染みの場所の映像の視聴から話題も広がり図書館の本やCDを活用することで得意な事の発見や楽しみが持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月一回の訪問診療を実施している。体調変化やワクチン接種等必要に応じて受診を行っている。状況に応じ医師よりご家族に直接連絡していただき適切な医療体制が整っている。他医療機関への受診にも対応している。	利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、協力医は月1回訪問診察している。協力医は夜間でも駆け付け、職員や家族からの信頼も厚い。専門医受診では、協力医からの紹介状や職員の同伴で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化等見られた際は協力医の看護師へ連絡相談することが出来ている。看護師を通じてスムーズな受診や医師からの適切な対応、助言を得られ不安なく相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーにて情報提供を行っている。入院中の面会は出来なかったが病院関係者から情報収集出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族との終末期の意思確認の整備を行い協力医と看取りについての協議を行っている。終末期に向け医師や看護師と連携を図り指示を仰ぎながら本人や家族が安心して穏やかな終末期を迎えられる様に全職員で支援できる体制に取り組んでいる。	開設3年で3例の看取りを行い、協力医の指導の下、本人・家族等が穏やかに終末期を迎えられるように対応した。重度化や終末期における対応方針については入所時に十分説明し、同意も得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医との連絡を含め消防機関の講習会や動画配信等を活用し初期対応の実践を身につける様努めている。急変時や事故発生時の連絡網も的確に対応できるよう見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で地域の方々の参加は得られていないが運営推進会議を通じて地域の民生委員、消防団の方々との協力確認は得られている。防災避難訓練は定期的実施、動画配信も活用し利用者、全職員で避難方法の確認を行っている。	災害時における地域の協力を働きかけ、同意を得ているが、コロナ禍で訓練実施に至っていない。隣接のグループホームとは緊急時に連携して対応する体制ができていないが、会社全体での応援・連携体制はできていない。	当会社は有料老人ホーム2か所、グループホーム2か所を経営しており、従事する社員数も多い。災害時には近くに住む社員が応援に駆けつける応援・連携体制づくりを全社的に検討されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として個々の人格の尊重を重視した話しかけ、プライバシーを損ねない様に日頃から分かりやすい言葉で対応している。	誇りやプライバシーを損ねないように、優しく、丁寧な言葉かけを心がけ、分かりやすく伝えるようにしている。入浴時や排泄時も周りを気にしないで済むようにドアやカーテン閉めの確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと分かりやすくはっきりとした言葉で話しかけ意思疎通が図れているか確認しながら本人の希望が聞けるよう対応している。自己決定しやすいよう本人のペースに合わせたタイミングや環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し生活のリズムに合わせて寄り添いながら穏やかに生活できるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がその日の着衣を選び楽しまれ迷った時は職員の助言を仰ぐ方もおられる。季節の移り変わりの衣服の調整時は時折り助言を行い快適に過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた行事メニューがあり盛り付け配膳を工夫し楽しく食事できるように努めている。数人の方はエプロンたたみやコップの片付け等を行っている。	昼食と夕食は経営する4事業所統一の献立で料理が搬入され、品数豊富で、満足度の高い食事が提供されている。利用者にはテーブル拭きやコップ片づけ、エプロンたたみなど、できる範囲で手伝いを得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に応じて食事量や食事形態の工夫を行っている。食事量や水分摂取については記録に残し体調管理、健康状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下防止のため、食事前にパタカラ体操やあいうべ体操などの口腔体操を行っている。毎食後の声掛けを行い口腔ケアを実施し義歯や歯磨きの不十分な所は支援して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し定期的にトイレ誘導の声掛けを行っている。本人からのトイレの訴え時もありトイレでの排泄が来ている。車椅子の方もトイレでの一つ一つの動作の声掛けで立ち上がりや移動時がスムーズに行えるようになってきている。	排泄チェック表を活用し、定期的な声掛けとトイレ誘導を行い、失禁が減らせるように取り組んでいる。また、トイレでの立ち座りがスムーズにできるよう、筋力を強める体操を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に一日の排泄状況を記入し把握できている。チェック表を確認してトイレの声掛けや水分不足にならないよう摂取を確認、便秘の方には主治医に相談し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に応じた入浴支援ができるようタイミングを見て入浴の声掛けを行っている。その日の体調や本人のペースに合わせて日時を変更しながら入浴できるよう支援を行っている。	入浴は週2、3回、平均30分程度の利用で、利用者の希望や状況に応じて実施している。利用者が全員女性で、同性介助ではないが苦情は出ていない。手作りのEM石鹸を使用し、かゆみ軽減に役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に軽く仮眠をとられる方、居室でテレビ視聴される方、ホールで職員と一緒に過ごされる方もおられ、夜間は個人の希望でシャッターを降ろす方、枕元に常夜灯を設置する方もおられ安心して良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の薬は三重にチェックし配薬時は一緒に名前、日付けを声を出して確認し服用して頂いている。処方箋は最新の物をファイルに綴じ内容変更があった場合は申し送りノートに記入し全職員が確認できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を一緒に干す方、たたみ、収納が出来る方とそれぞれ役割分担する様子が見られている。本人が使用したエプロンや歯磨きセットを片付ける等、出来る事を続けておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は多くないが四季折々の花見ドライブで季節の移り変わりを感じていただき、近隣の名所や自宅周辺まで足を延ばして顔なじみの方と会うことも出来、車中での会話も楽しまれている。天気や体調を見て施設敷地内の散策をして楽しまれている。	コロナ禍で、外出には制限があるが、GHの敷地が広く散策は日常的にできる。時には、近隣への花見、名所めぐりなどとともに、利用者の自宅周辺にドライブで出かけることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の出納帳の管理をしている。本人が希望される際は内容確認をさせていただいている。小口現金を所持している方もおられるが認知症があり管理が難しくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との連絡を希望されることが多く、直ぐに対応が出来る様に連絡先の一覧表を作成し、常時職員が対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍もあり消毒、換気、掃除、温度調整には十分注意を払い感染予防に努めている。清潔を心掛け季節の花や行事ごとの飾りを一緒に作成して展示し心地よい空間作りを行っている。	ホールは広く、テーブルやソファが配置してある。室内には季節の花を飾り、利用者による作成物が展示され、心地よい雰囲気づくりがされている。定期的にテーブル等の配置も変えられ、気分転換を図る工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに設置している二つのソファに自由に座っていただけるようにしている。時にはソファの場所を移動させ視野の変化を楽しんでいただきテーブル席も定期的に入れ替え誰でも会話ができる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に意向を伺いながらベッドや収納の位置を設定し居室内をスムーズに移動できる空間作りに努めご家族の写真や花を飾るなど安心して穏やかに過ごせる工夫をしている。	リクライニングベッドが共通して備えられ、必要に応じてポータブルトイレと折りたたみ椅子が置かれている。室内は利用者がスムーズに移動でき、くつろげるようにすっきり広く使える工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	敷地内部はバリアフリーで、車椅子もスムーズに移動でき、各所に手すりが設置され、動線上にも障害物はない。安心して移動し自立した生活が送れるよう環境を整え工夫している。		